

福岡・如法寺遺跡

- 1 所在地 福岡県豊前市大字山内
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)七月～八月
- 3 発掘機関 豊前市教育委員会
- 4 調査担当者 酒井仁夫
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 平安時代後期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(中 津)

如法寺遺跡は、豊前市街地より南に約8kmの小高い山に囲まれた谷間にある。この寺はもと、求菩提山護国寺(天台宗)の末寺の一つ、写経所と考えられているところである。発掘調査は、求菩提山と共に国の史跡指定申請のための、事前調査であった。

調査前から、経筒の破片等が採集され、あらかじめ遺構の存在が予測されていた。調査では、平安時代末

の遺構や遺物、それに鎌倉時代初期の遺物なども検出された。

木簡は、成就院という地名の場所ので検出された遺物包含層から出土した。地層の下は地下水の浸透があり、木質類の保存状態は良好であった。木簡と共に、多くの護摩に投入される乳木などが検出された。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「有漏無漏□除尊□有漏非□漏□



186×(16) 019

不空訳「九品往生阿弥陀三摩地集陀羅尼經」に「離有漏永入無漏」とあるなど、有漏・無漏は仏教語である。この木簡は経巻片であろう。

9 関係文献

豊前市教育委員会『如法寺 豊前市文化財調査報告書第四集』(一九八三年) (重松敏美)

